

素晴らしかった

チャイコフスキー記念豊田バレエ学校校長 諏訪等

私たちの名は、ロシア連邦ヤクシ共和国での文化交流公演のため、2004年3月17日、セントペテロブルグよりパロフスク経由で首都ヤクーツク市に出発、18日夕方に到着しました。ヤクーツク国立バレエ学校のゲスト・ルートが私たちの宿舎です。

翌19日から、基本練習とリハーサルが行われました。その間私は、いろいろな会合に参加しました。主なものは、世界文化と平和の国際フォーラムや北海道大学文化フォーラムで、突然、リハーサルを求められる場面もありました。また、ヤクーツクの合間をぬって文化大使と面会し、豊田市長からのメッセージをお渡ししました。文化大使は、相互間のハレがますます発展することを期待します。と歓迎してくれました。ヤクーツクの街の中心部は綺麗で、ビルもたくさんあります。車は日本車がほとんどで、トヨタのランドクルーザーが多くみられました。



文化大使を囲んで

20日、21日は通し稽古を行い、お互いの振りの確認などを行いました。当校もあららもロシアがゆるウラノ・メソッドなので、私たちはすぐに理解できました。

22日は豊田バレエ学校の5名の生徒が参加してヤクーツク国立バレエ学校の生徒たちと合同公演を行いました。第一部はコンサート形式で、「パドカトル」「日本舞」「バギータ」「ヤクーツク舞」ほか。そして第二部は、くるみ割り人形。一幕を双方の生徒で踊ります。

「くるみ割り人形」は昨年、只月豊田市での全幕公演に参加したので、すぐに合わせる事ができました。衣裳はヤクーツク国立バレエ学校の衣裳部から提供されました。生徒は、学校の脇田紗也加18歳が務めました。小柄ながら切れの良い回転やスピード感、はヤクーツクの方々に良い印象を与えたようです。

公演後の打ち上げの席ではヤクーツク国立バレエ学校のバギーナ校長をはじめ、首領陣の方々から、今回、この国で初の日本人のバレリーナが踊った素晴らしいと称えられました。



ヤクーツクの街並

パドカトル

その席であちらの教師から、ヤクーツク国立バレエ学校と豊田バレエ学校の大きさを比べはななくか、と尋ねられました。私は、国立と私立の違いは、給料の出るパレ団もありませんと、言うところ、経済大団の日本で国立のバレエ学校がないのはどうしてか。日本人には素晴らしい、ヤクーツクがたくさいるのにと、全く不思議そうを頷きました。私は、「日本にはたくさんバレエ教室があり、まじめに練習した生徒がコンクールで入賞しています」と補足しました。



生徒間の交流

バギーナ校長からは、学校とヤクーツク国立バレエ学校との姉妹提携の話しもいただき、現在前向きに検討中です。バギーナは、すでに打ち解け、みんなをサレセント交換したり写真撮る振るなど交流を深めました。

翌23日は19日目で、終日観光です。この日はマモスの化石が見見された国として、またタイヤモンが産出される国として有名な国です。

ヤクーツクならではの氷の山の洞窟には、氷でできたさまざまな国の彫像がありました。2003年の「愛・地球博」で展示されたランモスもありました。



レッスン風景

した博物館や資料館などを見学したあとはお土産を買います。土産物店には、グイヤモンと象牙で作られた作品がたくさん陳列されていました。生徒たちは思い思いの品を買っていました。長市長などから、サレセントされた厚い本を何冊か持ち帰りました。

また、ヤクーツク国立バレエオペラ劇場長から、脇田紗也加をリストとして招待したいという提案がありました。日本人には海外のレズ団で踊りた、という強い思いがありますので、なんとか良い方向に行くように折つていきます。



博物館にて



終演後の記念撮影